

丸山湿原群保全の会会報

(第 108 号)

発行日：平成 28 年 7 月 27 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788

臨時連絡先 090 - 1895 - 8061 (今住^{いますみ})

E-mail : maruyamashitugengun@gmail.com

気がつかぬ間に梅雨が明けてしまいました。通常梅雨前線が北上し梅雨明け宣言となるのですが、今年は梅雨前線消滅パターン。雨も降ったような、降らなかったようなよく分からない梅雨でした。近畿圏で洪水の災害が起きなかったことで良しとしましょう。水は足りてる？

巷では「ポケモン GO」が話題になっていますが、丸山は電波が入らないのでポケモンの出現はないでしょう。しかし、第 2 名神開通で電波状況もどう変わるかわかりません。湿原のど真ん中にピカチュウ出現もあるかも。油断せず注意していきましょう。メンバーで誰かしていますか？

(今住 7月25日作成)

活動報告

★7月24日(日)曇り (掲載写真は全て当日、丸山で撮影したものです)

8名で活動。巡回、観察、道笹刈り、サギソウ開花数調査準備、学術調査廃棄物撤去

【湿原までの道】

入り口付近の枯れ松(アカマツ)が伐採され、きれいに片づけられていました。付近のヌルデも処分され、これは少し寂しい気がしました。虫こぶ(虫えい)が毎年観察対象となっていました。パイオニア樹木といわれ、荒地地に最初に出てくる植物ですが・・・

「ナラ枯れ」がついに見える形で多く確認されました。駐車場から入ってすぐ左、竹筒看板近くの「アベマキ・・・」の看板手前の、節の多い古木。第 1 湿原入り口分かれ道(柵内)の 2 本。同じく第 1 湿原出水口北。パッと見ただけで 5 本の、樹齢 50 年～70 年ぐらいの古木が茶色になっています。昨年度から、「カシノナガキクイムシ」の侵入を確認していましたが現実に枯れた木を見ると悲しくなります。なぜ枯れるかは各自調べてみてください。武田尾でも目立ち始めました。緑の中に茶色い枯れ葉が見えればまずナラ枯れです。7 月末から 8 月に枯れます。

対策は無し！比較的古木につくことで、木の更新によってコナラなどがなくなることはないようです。また、餌となる古木がなくなると虫が移動してしまうため、被害は 5 年～10 年で終息と言われています。これまで伐採されずに放置されていた木が枯れ、かえっていいのではという乱暴な議論まであるそうです。どうでしょう？いずれにせよ、通路にかかる枯れ木は、数年以内に伐採の必要がありそうです。(枝折れ・倒木のおそれあり)



ナラ枯れ 全てコナラ

【サギ草開花数調査準備】

8月20日（土）実施予定のサギソウ開花数調査の準備を行いました。通路のササ刈り、調査ブロックのポイント確認と明示。ササの中を分け入るようにし、ポイントを探しました。汗だくになりながら、なんとか観察側からポイントがよく見えるようにできました。

驚くことにもうサギソウが咲き始めています。例年8月に入ってから観察と記憶しております。今年はやはり冬の温かさのせいか多くの植物が10日前後早い開花になっています。第1湿原で5株。第4湿原で10株以上の開花を確認しました。

8月20日（土）は少し盛りの過ぎた観察日となりそうです。



ササ刈り・ポイントチェック

【湿原の様子】

サギソウの開花。前回お知らせしたミミカキグサ3種がたくさん花を咲かせています。ミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ（県RDB Cランク）そろい踏みです。



ムラサキミミカキグサ

湿原性植物ではありませんが、湿ったところに咲くヒナノシヤクジョウ（腐生植物）（県RDB Bランク）もたくさん落ち葉の中から咲き出しました。これもとっても早い！どうなってる地球！！錫杖が集まったような、約2cmほどの花を咲かせます。よほど目が慣れていないか、ラッキーな人しか見つけることができません。8月末ぐらいまでは咲いていると思います。



サギソウ

自分で見つけた人には拍手です。

ハッチョウトンボ（県RDB Bランク）もたくさん飛んでいます。皿池にも負けていません。第4湿原尾が観察しやすいと思います。



ヒメタイコウチ

心配していたヒメタイコウチ（県RDB Bランク）ですが、少し探してみるとちゃんといました。やはり湿原へ入り込む機会が少ないため見つけにくいのか、草本類（草）が多いから見つけにくいのか？生態については今年の「丸山セミナー」で学習しようと計画中です。



ヒナノシヤクジョウ

今回マムシも2匹確認しました、まだ若い個体で色が薄い感じです。スズメバチもちらほら。必要以上に恐れることはありませんが、気をつけましょう。相手をよく知ることが必要だと思います。

夏の湿原内刈り取り作業7月30日（土）13：00～

総会でも活動計画として報告した「第3湿原乾燥部分の夏季草刈り、木本除去」を7月30日（土）13：00から実施します。地元の応援も（数名）依頼していますが、草刈り機が使える方、もしくは刈り取った草・木を湿原外に運び出す作業に協力できる方は、13：00に駐車場にお集まりください。大変暑い時期なので無理はしないように、熱中症対策は万全でご参加ください。危険と感じたときは、途中で取りやめます。（別日設定予定）

とりあえず半日の作業で、第1湿原内のササ刈りも考えています。

西谷小学校3年生環境学習 6月4日(土) 7月19日(火) 報告

今年度も西谷小学校3年生の環境学習として、丸山湿原群保全の会が引き受けました。

【6月4日(土)】

当日は、保護者参観日でした。2時間目、理科室で主にパワーポイントを利用して丸山湿原について説明しました。

前半は辰巳さんが「西谷に天然記念物の湿原がある事」、「湿原とはどういう場所か」についてお話ししました。3年生はまだ「湿原」のイメージが判らない。「湿」と言う漢字をまだ習っていないとのことで、説明に苦労されました。

後半は水田が、丸山で見られる花・虫・キノコ等について画像を紙芝居的に映しました。花ではサギソウ・トキソウ・ツチアケビなど。虫ではカブトムシ・シロシタホタルガ・ハッチョウトンボなど。その他カスミサンショウウオ・サワガニ・カエル類・キノコ類の画像を紹介しました。あまり花には興味がないようで、虫・は虫類・両生類・キノコ等には子供たちからいろいろな感想や意見が出ました。

【7月19日(火)】

雨により2回延期となりました。この日は岩崎さんと、水田が現地を案内。梅雨明けで、朝から蒸し暑い。午前9時半に丸山の駐車場に集合。生徒16名、先生2名、保護者3名の参加です。

観察は、第1湿原の視点場までの往復でした。駐車場の横で、エゴノキに着いた虫こぶ(虫えい)に注目。実と間違えるエゴノネコアシフシ、中にアブラムシが住み着いているのを皆で観察しました。



全員集合

案内板の所では、保全の会が、丸山に来た人数を調査している事について説明し、全員に竹筒に1人1つずつ石を入れてもらいました。道中では、センチコガネ、ハナカミキリ、オサムシ、ジャコウアゲハ、キンモンガ等を観察。センチコガネは丁度、獣の糞を食べていました。

植物は、宝塚の「市の木」ヤマボウシは果実が食べられる事などを説明。



写真がはめ込みのようすが合成ではありません。

ツチアケビは赤トウガラシ、ウイナーソーセージに似た果実の観察。ドクダミ、ガンピ、イヌザンジョウは皆で匂ってみて、それぞれに感想を述べてもらいました。第3湿原の木道を通り、第1湿原の視点場で、各自持参の双眼鏡を使いハッチョウトンボを観察しました(3頭確認)。

帰り道は、復習しながら11時20分に駐車場に戻ってきました。道中3回ほど給水休憩を取り、無事終了しました。次回は10月の予定。
(水田)

次回活動日 8月13日(土) 8月20日(土) 8月28日(日) ご参加ください。

HP7月末オープン!! 決定!!

※会報のメール配信希望の方は

E-mail: maruyamashitugengun@gmail.com にご連絡ください。

会報用の原稿と画像(丸山エリア)を募集! 載せたい記事、こんな発見など、なんでも結構です。上記アカウントまで投稿お願いします。

今回の植物解説は4ページ。

今回（7月24日）の植物

ミミカキグサ3種

ミミカキグサは食虫植物でタヌキモの仲間。多年草だが、寒さに弱い種でしか残らないとのこと。地下茎に捕虫囊をもちプランクトンなどを捕まえる。湿原に生育する食虫植物たちは水が栄養分を含んでいないので、虫を捕まえるように進化したと考えられる。虫を捕まえて消化・吸収するが、基本的には葉を持っており、光合成を行って生活する。

今回紹介する3種類は丸山湿原で普通に見られる。しかし、花茎を伸ばすまでを見つけることは相当困難。

ミミカキグサ（耳搔草）

6～8mmの葉を泥上にだし、6月頃から秋にかけて高さ10cm前後の花茎を出して黄色い花を咲かせる。花後、顎が残ってちょうど耳搔きのような形となる。湿原に生育するが、湖岸・湿った岩上などにも生育し、この仲間としてはもっとも生育範囲が広く、必ずしも貧栄養な環境を要求しているのではないと思われる。中～貧栄養性のため池などの水位変動域にもよく生育している。丸山でも最も多く、よく目立つ。



ホザキノミミカキグサ（穂咲の耳搔草）

6月から9月にかけて1つの花茎にたくさんの花を次々と咲かせる。花は淡い紫色である。ムラサキミミカキグサとよく似るが、ホザキノミミカキグサは受け口であり、長いものでは花茎は30cm近くになる。果実は丸く、耳かき状にはならない。1つの花茎にたくさんの花をつけ、穂のように見えることからホザキと名前がついたらしい。



ムラサキミミカキグサ（紫耳搔草）

6月から9月にかけて高さ10cm程度までの花茎を形成し、小さな紫色の花を咲かせる。

ムラサキミミカキグサの花は、名前の通り紫色を帯びるのが典型であるが、より薄いものがある、ホザキノミミカキグサと色だけでは区別しにくい。一般にホザキノミミカキグサよりも色は濃く、口を開いたように見える。花柄が長い点でも区別がつく。ホザキノミミカキグサに比べて、より海拔の高い、あるいは自然性の高い湿原に生育する傾向がある。（県RDB Cランク）

